

正法寺の門の郎党の御馬脇の石
色部長門の郎党の御馬脇の石
山源内で、この日記は米沢出

ところが、最近「越後御出勢」
と記して置いたのであった。
この本陣を何處に置いたかと
いう記載がなかった。

それで私は「広報にいつ」
第三七号において、
「その陣屋となつた場所は、
常識的に推定すると、司令
部は村役人のいた大庄屋の
電信局の辺」
その他の多くの士卒は、
直ぐ附近の旧正法寺(今市役所の附近)、
その他の民家に分宿したも
のと考えられる。

前にも戊辰の年の新津村農薄
に因んで、米沢藩の越後方面
軍が総督色部長門に引率され
たことを、「米沢藩參謀甘柏
備後維成日記」によつて紹介
したのであつたが、それには、
この本陣を何處に置いたかと
いう記載がなかった。

右の筆者は上士ではなく、
正法寺の上士でなく、
日記「米沢図書館蔵、写本」
を見て、右の疑問を水解する
ことができた。

正法寺(今市役所の附近)、
その他の民家に分宿したも
のと考えられる。

正法寺の門の郎党の御馬脇の石
色部長門の郎党の御馬脇の石
山源内で、この日記は米沢出

たようである。(五月十九日、雨)
御通通り、新津御宿陣、
曹洞宗 正法寺。

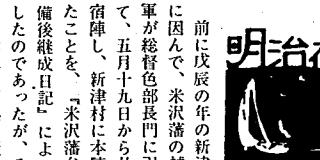
敵方の者も多かつたので、皆
成して宿陣の場所が決められ
たようである。

正法寺(今市役所の附近)、
その他の民家に分宿したも
のと考えられる。

正法寺の門の郎党の御馬脇の石
色部長門の郎党の御馬脇の石
山源内で、この日記は米沢出

米沢藩の新津陣屋は旧正法寺と新町の大和屋は旧正法寺寺と新町の大和屋は旧

阿達義雄



31

発日の日から記されているが、
新津村到着の前の日から示し
てみよう。なお、甚だしい誤
字や当字は訂正して、短注を
附記してみた。

(五月十八日)

五ツ時分(午前八時頃)御

出立、笛岡にて御登、御治

水原、市島徳次郎、

右は町家より二丁ばかり

裏には町家より御座候へど

も美々しき家作に候。上段

毫間四拾八戸、此家へ八ツ

時分(午後二時頃)御着き

いたものであろう。したがつ

て、「平島」というのは或い

るメモを基にして、後から書

いたものであろう